平成２８年　６月２３日（木）発行

信更中学校　校長室便り　第３号

～信更の子どもたちが、スズランの花のごとく明るく清らかに伸びてほしいとの願いを込めて～

お互いの存在、命が尊重され、居がい生きがいのある学校
～6月は人権同和教育強調月間～

6 月、信更中学校の周りの林からは、ホトトギスの鳴き声がさかんに聞こえてきます。また、今年は温かいせいでしょうか。例年より早くエゾハルゼミの合唱も聞こえてきます。田野口の聖川周辺では例年より 1 週間も早くホタルが確認されたというお話を聞きました。梅雨の晴れ間に、23 日にプール開きを行う予定のプールに青空が映っています。

さて、「学校要覧　信更中学校グランドデザイン（学校づくりの構想図）」や、先月発行の「校長室便り」でも紹介させていただきましたように、信更中学校では、人権教育を学校づくりの重点としています。そして、6 月を前期人権同和教育強調月間と位置づけて、道徳などの授業だけでなく、生徒会が 3 回の人権生徒集会を企画・運営します。その様子は 7 月号で紹介させていただきますが、生徒が主体的に人権教育を大切にした学校づくりに参画してくれていることに頼もしさを感じます。

信更中学校は、「信更中学校人権宣言」（平成 21 年生徒会立案）を軸にして、互いの存在や命の大切さを学び、生徒一人一人が大切にされ、居がい生きがいのある学校づくりに取り組んでまいります。

創部５年　信更中バドミントン部　いざ出陣！！

6 月 10（金）市中大会壮行会の激励の言葉の一部を抜粋して掲載させていただきます。

信更中学校にバドミントン部ができて５年。信更中バド部は今や長野県下に誇るバドミントンの強豪校です。ここまで作りあげてくださった先輩方の苦労や思いがあって、今日の日の皆さんがあります。感謝の気持ちを持って、持てる力を存分に発揮してください。

さあ、いよいよ市中大会が明日に迫りました。

今日のこの壮行会で、皆さんに伝えたいことは、「チーム信更として戦う」ということです。「チーム信更として戦う」とは、どういうことでしょうか。「コートの選手、ダブルスなら選手同士、ベンチ、ギャラリーの応援が一体となって戦う」ということです。本来、バドミントンは個人競技です。実際にコートに立って戦うのは選手です。しかし、ベンチ、ギャラリーがチームとして一体となって応援し一緒に戦うことで、選手はその一本に集中し、相手を上回ることができるのです。応援は何より力になります。とにかく選手も応援もその一本をとるために、勝っても負け

ても最後までしっかり声を出し、よくコミュニケーションをよくとって戦ってきてください。
　特に３年生の皆さん、どんなに調子が悪くても、苦しくても、「絶対負けない」と自分に言い聞かせて、自分を信じ、友を信じ、苦しい時ほど声を出して、粘って粘って粘ってシャトルを追い続けてください。１年生、２年生は先輩をしっかり支えてください。何も怖がることはありません。自分を信じてチームの力を信じてプレーするだけです。
　「信更中ここにあり」と信更中の名を轟かせてきてください。健闘を祈ります。

【　市中大会の結果報告　】

◯男子団体、女子団体　東北信大会出場へ

◯男子ダブルス　大矢・三澤２位、北澤・中澤ベスト８　東北信大会出場へ

◯男子シングルス、女子シングルス、女子ダブルスは健闘も、市中大会で敗退

PTA 作業①プール掃除 5/28(土)ありがとうございました

　過日行われました PTA 作業①（プール掃除）には、生徒、保護者の皆さんのみならず、多くの地域ボランティアの皆さんや住民自治協議会の皆さんにも参加していただき本当に感謝です。全員でプールの中に入り、横壁やプール底の汚れを、たわし、デッキブラシなどで落としていきました。また、プールサイドの清掃も行いました。

　作業が終わった後に、あれだけ汚れがあったプールがきれいになった様子を見るのは、本当に気持ちのよいものです。この気持ちのよさの中味は、きれいになった達成感と、地域の皆様に支えられている心地よさもあるでしょうか。本当にありがとうございました。

信更中が情報通信標語コンクールで総務省局長賞受賞！

「たった今　あなたの情報　カクサン中」（3年　三澤歩未さんの作品）

　6 月 18 日（土）の市民新聞に掲載されましたように、信更中学校が「情報通信の安心安全な利用のための標語」学校部門で局長賞を受賞いたしました。県内では唯一の受賞です。

　これは、昨年度 1 月の情報研修会後に生徒が標語を考え、本校では三澤さんの作品が学校代表として応募されたものです。右の写真は、13 日（月）に校長室で行われた表彰式の様子です。学校を代表して三澤さんが信越総合通信局長さんから賞状等を手渡されました。 6 月下旬にもインターネット利用のマナー向上、犯罪防止のための研修会を予定しています。これからも情報通信の安心安全な利用について取り組んでまいります。　　（文責　　小山　貴）